



大会運営も 主役は生徒で

全中スキー大会の運営を支えた地元中学生

「雪と輝き風になり 今、高山に舞い上がれ」をスローガンに、2月4日から7日までの4日間、第46回全国中学校スキー大会が高山市で開催されました。岐阜県で開催されるのは13年振り3回目。

大会は、アルペン競技で市内中学生(新井真季子さん・日枝中3年、二俣友里さん・丹生川中2年)が入賞するなど大いに盛り上がり、閉幕しましたが、大会運営も地元中学生たちが裏方として支えました。

今回の大会は、連日の暖かな陽気のため、競技会場では雪が解けて川のように水が流れました。特にジャンプの競技会場の雪不足は深刻で、重機での作業ができず、人海戦術での競技場整備を余儀なくされました。そこで活躍したのが久々野中の生徒たち。鈴蘭シヤンツエ(朝日町西洞)に降った雨まじりの雪を横一列になって踏み固め、競技運営を支えました。

問合せ先
大会事務局
☎52-3461

生徒が担当し、手際よく作業にあたったほか、豚汁やコーヒーマスターの配膳サービスで、全国からの来場者をもてなしました。

会場に飾られた各県選手を応援するのぼり旗が象徴するように、生徒が主体的に関わって運営された今回の大会、閉会式の最後は、「そしゃ、またいな」と飛驒弁で締めくくり、会場はおもてなしの心を受けて笑顔で満ちあふれました。



コーヒーマスターの配膳サービスを行う中学生



市内中学校の全学級が作成した応援ののぼり旗

参加者の声 interview



かとうりな
加藤里菜さん
(久々野小)

温泉熱を利用した 果物づくりにびっくり

ドラゴンフルーツはテレビで見て知っていました。でも温泉の熱を使って育てていると聞いてびっくりしました。キウイに似た味でおしかったです。

農山村での体験型観光に取り組んでいる「ふるさと体験飛驒高山(会長 水野光良さん)」では2月8日、市内の小学生を対象にした農業体験モニターツアーを開催し、新規体験メニューの可能性を探りました。

今回の企画には、清見小、久々野小の子どもたち24人が参加。サボテン科の果物(ドラゴンフルーツ)を手掛けている(有)フルーツ

農業体験モニターツアーでふれあい交流

温泉熱のハウスで 地域農業を体験学習

ク(奥飛驒温泉郷栃尾)を訪れ、収穫体験や環境にやさしい農業などについて学びました。

参加した子どもたちの大半が初めての見学とあって、地域資源である栃尾温泉の温泉熱を農業に活かした取組みは、とても新鮮だったようで、企画した同組織も手応えを感じていました。



ドラゴンフルーツの感触を確かめる子どもたち

問合せ先
観光課
☎35-3145